

【食の風リゾートオフィス宣言!!】

食の風はやんばるに移転しました。
より、生産者のもとへ。
より、生産現場を知るために……。
そんな訳で、ひとまず雑誌はお休みします。

私は、東京から沖縄に移住して26年になりました。
出版や広告、飲食などの業務に携わりながら、
日本の南の亜熱帯都市「那覇」という「魔都」に魅せられて
高温多湿な中で蠢く人間模様と路地裏の世界が
生まれ故郷の池袋という混沌とした街と
どこかオーバーラップしたのかもしれない。
しかし、そんなカオスのような魅力のあった那覇は
再開発と近代的な高層ビルとともにどんどん消えていきました。
市場は観光客のためにとて代わり、本土と同じような
郊外の大型ショッピングセンターとコンビニがたくさんできました。
国際通りは、修学旅行生のための原宿竹下通りのように
アニメやキャラクターグッズでいっぱいです。

一方、そんな沖縄に私たちは15年前から「沖縄移住計画」を率先して
雑誌やイベントなどでPRしてきました。
そうした甲斐もあってか、沖縄には本土からの移住者が相当増えました。
特に、2011年3月11日の東日本大震災以降は、
別な意味で沖縄への移住者が増えています。

「放射能が怖いので、とにかく原発から一番遠い国内に移転してきました」
こんな人たちが後を絶ちません。

沖縄では、原発による放射能に関しての問題はないかもしれませんが、
米軍基地がある限り原子力潜水艦による放射能や枯葉剤の問題
オスプレイ配備などによる騒音問題など、基地問題が山積みです。
ですから、日本中どこへ行っても様々な

避けて通れない地域の抱える問題があるのです。
その土地に移り住むには、一時のぎや逃避生活ではなく、
地域に仕事や雇用を産み出す覚悟を決めて移住してほしいと願います。

私たちは、いろいろと試行錯誤しながら、やっと那覇を離れて
本島北部の宜野座村にリゾートオフィスを構えることができました。
海辺まで徒歩3分、事務所の前の自家菜園、漢那の森に囲まれた
自然環境豊かな「有機の里」宜野座村」と言う風光明媚な場所です。
より生産者に近く、より生産者の声を届けるために、
6次産業化を進め、衰退する農林漁業を盛り上げるために、
軸足をやんばるに移し、自ら有機農法、自然農法などに取り組むことにしました
今では、開墾、草刈り、播種、収穫、加工、販売、配達など、
また、体験農園、CSA事業、ファーマーズマーケット等で手一杯になり、
とても雑誌を創り上げて行くヒト、モノ、カネ、
時間が足りなくなっていました。
そんなわけで、愛読者やスタッフ、スポンサーの皆様には恐縮ですが、
ひとまず、雑誌「食の風」はお休みさせていただきます。
今後はWEBや機関紙などで出版活動が続けて行く予定です。
よろしくお願いたします。

また、やんばるにお越しの際は、お気軽にお立ち寄りください。

季刊「食の風」
発行・編集人 田崎聡

